

宇宙開発利用の持続的発展のための
“宇宙状況認識 (Space Situational Awareness : SSA)” に関する国際シンポジウム

実施機関：一般財団法人 日本宇宙フォーラム（総括責任者：間宮 馨）

実施期間：平成 24 年度

プロジェクトの概要

昨年度、本制度を活用して、SSA 問題への対処において先行する欧米の政策レベルのトップを招待し、情報収集、情報交換の場を設定し、所期の目的を達成することができた。今年度は、議論を更に深化させるために、「透明性・信頼性醸成措置 (TCBM)」の観点から、国際協力合意に向けた議論を行うことを目的として国際集会を企画する。特にアジアからも SSA 活動が不透明な衛星破壊実験を行った中国、近年宇宙の軍事利用に傾斜しつつあるインド、並びに新興国である韓国等の代表を招待して、日本のイニシアチブで、欧米諸国と共に、宇宙開発利用の長期持続性確保のために、真の国際協力の可能性を追求することを目標として、今年度の国際集会を開催する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
S	s	a	a	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

宇宙開発利用の持続的な発展に向けて、宇宙環境の悪化に対処するためのスペースデブリ管理を主眼とする「宇宙状況認識 (SSA)」活動を、国際連携のもとに推進することが今急務となっている。

本取組では、我が国のリーダーシップのもとに、軍関係者も含む欧米の主要関係者及び専門家を、そしてさらにアジア太平洋地域からも関係者を招いて、我が国の関係者・専門家とともに、この問題について広く議論する場を提供し、国際連携による対応の重要性認識を醸成し、民間外交としてできること、そしてその利点を明確にして、独自の役割を果たしていることは高く評価できる。さらに、アジア太平洋地域における SSA 活動の重要性を各国に喚起し、我が国のイニシアチブによる貢献が求められる結果となるなど、我が国のプレゼンスを明確にする機会に繋がっており、科学技術外交の良い機会として大きな意義が認められる。我が国のイニシアチブをさらに確固たるものにするべく、一元的 SSA 活動実施体制確立に向けて、スペースデブリ総合監視・解析センターの早期実現を期待する。

- ・ **目標達成度**：欧米からの参加者に加えて、アジア太平洋地域の宇宙利用推進国である中国、韓国、インドからも参加者を得て、連携した SSA 活動の実施に向けた信頼関係の醸成に努めるなど、採択時のコメントにも適切に対応し、我が国のイニシアチブにより、この問題に関してグローバルな観点からのオープンな議論を成し遂げており、民間機関ならではの科学技術外交

として、高く評価できる。さらに本取組をもとに、我が国における SSA 活動実施体制検討の必要性が示され、体制確立に向けた機運が醸成されつつあることも意義が大きい。

・**成果**：SSA 活動の重要性に関する情報発信と対応政策に向けたインパクト、関係者間のネットワークの確立等において優れた成果を得ており、本分野における我が国のプレゼンス向上にも貢献している。軍が関与しない民間団体としての特長を生かした国際連携体制構築へと、着実に展開しつつある。

・**計画・手法の妥当性**：欧米からの参加者の活動に比べて、アジア各国では本分野の専門家やキーパーソンがまだ十分に育っていない様子が見受けられるものの、各国において活動の鍵を握る機関からの参加が得られている。各国からこうしたキーパーソンの参加を得て、共通の場で認識を共有し、信頼関係を醸成しつつ SSA 活動推進を図るねらいは適格と評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：国際連携にて SSA 活動を推進する体制作りに向けた本取組は、継続して実施されることが重要であり、その認識のもとに工夫が考えられ、宇宙デブリ国際シンポジウム(AMOS)との連携強化が図られていること等も高く評価できる。科学技術外交推進の名のもとに、我が国のイニシアチブによる連携展開をさらに推進し、本分野において世界に貢献する我が国の一元的 SSA 活動実施体制として、スペースデブリ総合監視・解析センターの早期実現を期待する。